

大阪大学 × 梅花女子大学 × 凸版印刷 (株) シンポジウム

梅花女子大学所蔵 中井終子日記を通して探る vol.2

# 懐徳堂研究と女学生文化

会場：グランフロント大阪北館ナレッジキャピタル

「The Lab.」2F アクティブスタジオ 参加無料 / 事前申込不要

2017年

1/22 (日)

13:30-16:00

(開場 13:00)

## 基調講演【懐徳堂顕彰運動と大阪人文会】

### 講演の概要：

明治の末に盛んになる懐徳堂顕彰運動は、当初大阪人文会が取り組みました。しかし、大阪人文会については分からないことが少なくありません。

今年度のはじめ、大阪大学の懐徳堂文庫が新たに収蔵した資料の中に、太田源之助の『古漁雑記』が含まれております。太田は大阪人文会の会員で、西村天囚が『懐徳堂考』上巻を執筆するに当たって、資料を提供した人物の一人です。

講演では、『古漁雑記』中の太田の日記を紹介し、人文会と懐徳堂顕彰運動との関係についてお話しします。

### 竹田健二 プロフィール：

島根大学教育学部教授。1962年島根県生まれ。研究領域は、出土文献を用いた中国古代思想史研究・懐徳堂研究。著書に『市民大学の誕生—重建懐徳堂と中井木菟麻呂』（大阪大学出版会、2010年）、『先秦思想と出土文献研究』（台湾・花木蘭文化出版社、2014年）他。



## 【梅花女子大学所蔵写真からひも解く女学生文化】

### 講演の概要：

明治11(1878)年、大阪で最初のキリスト教主義教育の女学校として創設された梅花女学校の写真をもとに、日本の女学校創設期における女学生文化について概説します。当時の女学校生活のなかでも、その装いやスポーツは少女たちの憧れでした。

女子教育の興隆期である19世紀末から20世紀初頭にかけて、女性の生き方やライフスタイルが新しく変わっていったことをご紹介します。

### 好田由佳 プロフィール：

梅花女子大学文化表現学部教授。  
主な論文『ヴィクトリア朝後期の身体観—少女の健康をめぐる言説をとおして—』他。  
(一社)日本家政学会服飾史・服飾美学部会長。  
国際服飾学会・日本ジェンダー学会所属。



## 懐徳堂とは

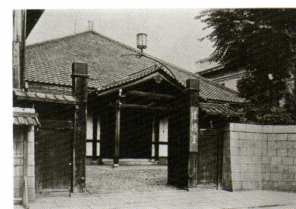
懐徳堂は、享保9年(1724)、大坂町人によって創設された学問所です。江戸時代の後半約140年にわたって大坂学術の発展と商道德の育成に貢献しました。一時は、江戸の昌平坂学問所と並ぶ隆盛を誇ったと伝えられています。

中井竹山(なかいちくざん)・履軒(りけん)兄弟をはじめ、富永仲基(とみながなかもと)・山片蟠桃(やまがたばんとう)などのすぐれた学者を輩出しました。

明治2年(1869)に一旦閉校した懐徳堂は、大正5年(1916)に再建されます。再建された懐徳堂は、昭和20年(1945)の大阪大空襲によって焼失するまで、大阪の市民大学・文科大学として多くの市民に親しまれ、その多くの資料は大阪大学に寄贈されました。



大正15年11月6日懐徳堂 創学二百年重建十年祭典并記念式記念撮影  
前列向かって右より4人目が中井木菟麻呂



重建懐徳堂  
(一般財団法人懐徳堂記念会蔵)

## 梅花女学校とは

梅花女子大学は、1878年に大阪で初めての女学校として創設された「梅花女学校」を前身としています。創設者<sup>さわやまぼうる</sup>澤山保羅(1852-18)は、神戸で英語を学んでアメリカに渡り、帰国後に浪花公会の牧師となりましたが、日本での女子教育の重要性を感じ、梅花女学校を設立しました。キリスト教の精神にもとづきながらも、ミッションボードに依らない自給独立運営の女学校として、日本の女子教育黎明期の一躍を担いました。男子の学校と遜色ない幾何学や経済、英語などの科目を設定し、日本ではじめてバスケットボールを取り入れるなど、時代を先駆ける学びの場として、梅花は139年の歴史を刻んでいます。

## 【お問い合わせ先】

梅花女子大学 企画部 広報グループ 茨木市宿久庄 2-19-5 TEL:072-643-6343 FAX:072-643-6277